

令和7年度 調布市立第三小学校 学校経営計画（学校長 秋國 光宏）

学校の教育目標		
○情操の豊かな心 ○自主的に学ぶ子 ○明るく健康な子ども		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
「子どもが主語に・教職員と共に・地域と共に ～子どもの未来に希望をつなぐ共育の推進～」		
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○子どもが主語に ○教職員と共に ○地域と共に	子ども第一主義の下、子どもの主体性を伸ばす学習環境の整備を充実させる 教員の子どもに対する思いを大切にし、教職員が一丸となって教育活動を推進する すべての大人が、子どものサポーターとして関われる環境整備を推進する
中期的な経営目標		
① 全学年で道徳科の交換授業を行うことを通して、学年全ての教員により道徳教育を充実することができる体制を整える。 ② 学年・教科担任制における指導体制の充実を図り、児童の学力向上や多面的な児童理解を図ることができる校内体制を整備する。 ③ 体育専科や体育科の教科担当等による体育科授業の充実を図り、児童の体力向上や運動に親しむ資質・能力を育む。 ④ コミュニティ・スクールの体制を充実し、地域とともにある学校づくりを推進する。 ⑤ 多面的な児童理解に努め、児童のよさを多く見取る肯定的な評価に努めとともに、生活指導上の課題を組織的に解決する体制を推進する。 ⑥ 特別な支援が必要な児童のニーズに応じた支援体制を推進するために、特別支援教育推進委員会や特別支援教室との連携充実に努める。 人・組 学年・教科担任制の体制整備を推進し、教員の専門性の向上や業務遂行の効率化を図ることができるようにする。		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ①道徳科の授業は、原則、学年全体で交換授業を行う。様々な教員が指導することで、考え議論する授業をすすめ、多面的な物事の見方や多角的な考え方を高める。 ②異学年交流活動の推進を図る。いじめ撲滅の取組やあいさつ運動、いのちと心の授業の充実を図り、自分や相手を大切にすることの心情や人間関係を築く能力や態度を育成する。	(1) 取組目標（具体的方策） ①学年・教科担任制を充実し、教員の専門性を向上させたり、対話を通じた協働的な学びを充実させたりする授業改善を推進し、児童の考え続ける力の向上を図る。 ②学習者用端末等の ICT 機器の利活用を図り、児童個々の個別最適な学びや協働的な学びを充実させ、主体的・対話的で深い学びの授業展開に努める。	(1) 取組目標（具体的方策） ①体育専科や体育科教科担当等により体育科授業の充実を図り、児童の体力の向上に努める。 ②ちょこブラ1 調布の取組や「マラソン旬間」「なわとび旬間」「ロング昼休み」を通して運動に親しむ資質・能力を育む。
(2) 成果目標（数値目標） ①児童評価アンケート「豊かな心の育成」の項目で、肯定的な回答率を90%以上とする。 ②児童評価アンケート「いじめ撲滅の取組」の項目で、肯定的な回答率を90%以上とする。	(2) 成果目標（数値目標） ①児童評価アンケート「確かな学力の育成」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。 ②児童評価アンケート「ICT を活用した教育活動」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。	(2) 成果目標（数値目標） ①児童評価アンケート「体育科における授業の充実」の項目で、肯定的な評価を80%以上とする。 ②児童評価アンケート「体力向上の推進」の項目で、肯定的な評価を80%以上とする。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ コミュニティ・スクールの推進	⑤ 生活指導の充実	⑥ 特別支援教育の充実
(1) 取組目標（具体的方策） ①学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的な活動を充実し、地域とともにある学校づくりの推進を行う。 ②生活科や総合的な学習の時間を充実させるために地域資源や人材を活用するとともに、教科横断的な学習指導を充実し、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。	(1) 取組目標（具体的方策） ①学年・教科担任制を推進することで多面的な児童理解に努め、児童の多くのよさを引き出すとともに、組織的な課題解決に努める。 ②校内教育支援センター別室の運営を民生児童委員や健全育成委員等の地域人材を生かしてすすめ、不登校児童への支援体制の充実を図る	(1) 取組目標（具体的方策） ①個々の児童における支援の充実を図るために、特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育推進委員会を設置し、巡回指導教員を委員に加え組織体制の充実を図る。 ②特別支援教室体制や巡回相談体制を効果的に進めるために、巡回指導教員や巡回相談員と教員との連携を充実させ、更に一人一人の児童のニーズに応じた支援に努める。
(2) 成果目標（数値目標） ①学校評価アンケート「学校運営協議会の推進」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。 ②学校評価アンケート「地域連携」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。	(2) 成果目標（数値目標） ①児童評価アンケート「生活指導の充実」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。 ②児童評価アンケート「不登校支援の取組」の項目で、肯定的な評価を90%以上とする。	(2) 成果目標（数値目標） ①児童評価アンケート「特別支援教育の充実」の項目で、肯定的な評価を80%以上とする。 ②学校評価アンケート「特別支援教育の充実」の項目で、肯定的な評価を80%以上とする。

人材育成・組織運営
○研究推進部が計画する OJT 研修は、若手、中堅、ベテラン教員がグループになり学び合うメンター研修とする。 ○週 1 回の校長や主任教諭等による校内若手研修を行い、教員としての基本的な資質・能力の向上を継続的に図る。 ○ケース検討カードを活用し、生活指導上や不登校支援策、特別支援教育の対応については、機動的にケース検討会議を実施する。 ○放課後子ども施設との連携会議である学童ミーティングや経営支援部の運営を充実し、児童の情報交換や学校環境整備に努める。